

策定委員会等会議録

審議会等の名称	第1回甲州市商工業振興計画策定委員会
開催日時	平成29年3月27日（月）19:00～21:00
開催場所	甲州市役所本庁舎2階第1会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	雨宮一樹、大久保親雄、澤伸恭、豊岡翠、西海達彦、平塚明美、古屋一彦、松吉寛治（8人） 〔敬称略・五十音順〕
事務局	田辺市長、中村産業振興課長、林主査、中山主査、雨宮主事
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員委嘱 3 甲州市長挨拶 4 委員自己紹介 5 事務局職員紹介 6 甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱の説明 7 委員長・福委員長の選出 8 市長からの諮問 9 議事 <ol style="list-style-type: none"> （1）委員会の運営について （2）委員会のスケジュールについて （3）その他 10 商工業振興に関する講演 11 閉会
内容	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p> <p>○事務局（開会の辞）</p> <p>○市長（各委員へ委嘱状を交付の後、挨拶を行う。）</p> <p>本日は、年度末のお忙しいなか、甲州市商工業振興計画策定委員会第1回委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。会議の開会に先立ち、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本市では、甲州市総合計画「甲州市まちづくりプラン」にそって、住みよいふるさと甲州市を実現するため、まちづくりに取り組んでおります。そのなかでも創意に満ちた活力ある産業のまちづくりは、甲州市の根幹となる部分でございまして、商工業の発展、振興は、まちの活性化に欠かせないものであると認識しております。</p> <p>「甲州市商業振興計画」から5年が経ち、社会情勢、また経済情勢の変化とともに計画を見直す時期となり、この度「甲州市商工業振興計画」として、新たな指針となっていく予定でございます。</p> <p>現在、本市の商工業を取り巻く環境は大きく変化し、人口の減少や少子・高齢化、核家族化に伴う消費者ニーズの変化をはじめ、スーパーマーケットなどの大型商業施設が賑わいを増し、反面、中心市街地の空洞化が進むなど、中小企業の事業活動に大きな影響を与えています。</p>
1 開会	
2 委員委嘱	
3 市長挨拶	

	<p>本市でも、事業所が減少傾向にありまして、その対策として、新規出店者のための空き店舗対策事業や、昨年、経済産業省の認定を受けた「創業支援事業計画」により、商工会、金融機関とともに、きめ細やかな支援事業を展開しております。</p> <p>また、後継者不足も深刻となっていることから、事業をスムーズに次の世代に承継していただくため、事業承継の支援にも取り組んでおります。</p> <p>このような事業を体系的に整理するとともに、世界に誇りうる果樹地帯、日本のワイン発祥の地といった本市の特徴も十分に盛り込んだ、皆さんの意見が活かされた充実した商工業振興計画が策定され、市内の商工業がさらに発展、振興していくことを期待いたしまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
4 委員自己紹介	○各委員（自己紹介を行う。）
5 事務局職員紹介	○事務局（事務局職員の紹介を行う。）
6 甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱の説明	<p>○事務局（甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱について説明する。）</p> <p>本委員会の目的といたしまして、本市の持つ資源や特性を活かした市内商工業の振興と発展に資するための甲州市商工業振興計画を策定するため、甲州市商工業振興計画策定委員会を設置する。委員の皆様におかれましては、計画案の検討に関する事、商業振興に関する事、工業振興に関する事、雇用及び就業機会の確保に関する事、勤労者福祉に関する事、その他商工業の発展に関する事について議論いただく。</p> <p>組織については、委員10名以内とする。任期については、本要綱に規定する目的を達成する日までとする。本委員会には、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により決定する。会議の議事進行は任命された委員長が行う。</p> <p>委員会の庶務は、産業振興課商工担当において処理する。その他といたしまして、要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。</p> <p>本要綱は平成29年3月27日より施行する。</p>
7 委員長・副委員長の選出	<p>○事務局（委員長及び副委員長の選出について、「甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱」に基づき、委員長に澤伸恭委員、副委員長に大久保親雄委員を互選により選任する。）</p> <p>○委員長（挨拶を行う。）</p> <p>甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱を拝見し、とても重責であり、身の引き締まる思いでございます。微力ではございますが皆様と一緒に計画を策定したいと思っております。甲州市商工業振興計画について魂を込めて策定することで、これからの甲州市が随分変わっていくのかなと思っておりますので、皆様と一緒に頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
8 市長からの諮問	○市長（諮問書を澤委員長へ交付、交付後、他の公務のため退席）
9 議事	
(1) 委員会の運営について	<p>○委員長 委員会の運営について、事務局よりご説明をいただきたい。</p> <p>○事務局 委員会の運営につきましては、毎回委員10名をもって執り行う。</p> <p>甲州市には情報公開条例や甲州市の附属機関の設置に関する条例があり、会議は基本的に公開とさせていただきます、会議録や会議資料につきましても、ホ</p>

<p>(2) 委員会のスケジュールについて</p>	<p>ホームページ等により公開させていただきたい。また、委員会時の写真等も掲載させていただきたい。</p> <p>○委員長 皆様よろしいか。</p> <p>○委員 異議なし。</p> <p>○委員長 委員会のスケジュールについて、事務局よりご説明をいただきたい。</p> <p>○事務局 本日、平成29年3月27日(月)が第1回目の策定委員会となる。年度を跨ぎ平成29年度は5回ほど策定委員会を開催し、平成30年3月には計画を策定したいと考えている。平成30年度からは、その計画に沿って実施をしていく。</p> <p>平成29年2月から3月にかけて甲州市商工会にご協力をいただき、商工会加盟市内847社に対しアンケート調査を実施した。現在取りまとめを行っており、次回の策定委員会ではアンケートの調査結果をお示ししたい。</p> <p>策定委員会のほかにワークショップを3回ほど実施したい。その他、パブリックコメントを実施し、市民の意見を広く取り入れ、平成30年の3月には計画のまとめをしたいと考えている。</p> <p>○委員長 スケジュールについてご意見、ご質問があればお伺いしたい。</p> <p>○委員長 無いようですので、こちらのスケジュールで取り組んでいく。</p> <p>○委員長 その他について事務局よりお願いしたい。</p> <p>○事務局 会議を開催するにあたり、このまま夜間帯でよろしいか。昼間がどうか。ご意見があれば伺いたい。</p> <p>○委員 19時からというのは遅いと思う。夕方16時から17時くらいの時間帯でいかがか。</p> <p>○委員長 事務局の方で調整をしていただきたい。</p> <p>○事務局 検討をさせていただき、早い時期に開催日等をお伝えしたい。</p> <p>○委員長 以上で議事を終了とさせていただきます。</p>
<p>(3) その他</p> <p>10 商工業振興に関する講演</p>	<p>○委員長 (商工業振興に関する講演を行う。)</p> <p>総人口は減少している。これまでと同じ生産をしていこうとすると付加価値を向上させていくしかない。甲州市でも人口は減っている。一方、東京では一極集中している。東京と地方を比べると、地方の方が稼ぐ力(付加価値)が小さい。ここに差がある。地方より東京に魅力を感じている人が多い。これから地方はどうしていかなければいけないのか。地方に儲かる仕事をつくらなければいけない。地方にコツコツ付加価値の高い産業をつくる必要がある。そのために、商工業振興計画を真面目に考えて作っていく必要がある。</p> <p>山梨県では99パーセントが中小企業であり、日本を支えているのは中小企業である。中小企業の売上高は伸び悩んでおり、小規模事業者は減っている。売上高は減少しているが収益は増加している。中小企業は人を採用するのが不利であって、設備投資も伸び悩んでいる。大企業に比べると生産性は低い。ところが製造業では、約1割の中小企業が大企業より生産性が高いところがある。非製造業では、約3割の中小企業が大企業より生産性が高い。中小企業であっても頑張っているところでは大企業より生産性は高いので、何か頑張ってもらえるような施策を行っていくことが望ましい。</p>

生産性の高い中小企業の特徴は、ITを活用し、海外進出に力を入れている。経営者が若くなっている方が利益率は高いというデータも出ている。事業承継ということも念頭に置く必要があると思う。新商品、新サービス、新しい販路開拓のようなイノベーション活動をしている事業所の方が利益は高い。イノベーション活動を進めていくことは重要であると考えている。中小企業にとって販路開拓の課題は、人材が雇えない、情報が上手く収集できない等が挙げられる。中小企業では人材の採用手段が限られている。中小企業は離職率が高く、新卒3年以内で4割となっている。以前は、雇用を担う中心産業は製造業であった。現在は、産業の多様化が進み、特にサービス業が増加している。

地域には様々な人が使える地域資源がある。地域の人誰でも使える。周りから見たら魅力的。地域資源を活用することによって、高付加価値の商品を開発できる。地域には様々な課題がある。その課題を解決していく中で、新たな雇用を生み出したり、人材を育てていければ良いのではないかと考える。

リーサスを活用すると様々な情報を知ることができるので活用していく。
※（他市町村の商工業振興対策について、特徴的な目的を定めている市町村の説明を行う。）

今後、甲州市商工業振興計画策定に向けて甲州市が魅力的な地域であり続けるためには、地道に付加価値の高い産業をつくり、雇用を増やし、魅力を感じた人が入ってくることをしていかなければいけない。

甲州市商工業振興計画策定にあたっては、目的の設定、甲州市の現状分析、甲州市の優位性、特徴、今後の社会環境変化、だれが共有する計画か、策定方法、重点分野の選択、成長戦略、雇用創出、具体的な振興策、将来いつ頃までの期間を予定しているのかを検討していく必要がある。

※（甲州市ふるさと名物の内容説明を行う。）

（質疑応答）

○事務局 県外から見る甲州市の地域の特徴は果樹であり、日本農業遺産にも認定されたが、外から目を引いてくれるところに関しては他に比べて注目されている。そのうえで、ワインというものは一種の飛び道具。県外に出ても、「ぶどうやワインは有名ですから知らない人はいないですね。羨ましいですね。」と言われる機会が多い。企業を活用し、ワイン、果樹、を柱としながら、訪れる人に甲州市のワインがすごいと知ってもらえれば、交流人口が増えて、宿泊者も増えてくる。特徴的なものを盛り込み、実際に行動に移していければ面白い。

○委員長 香川県がうどん県と宣言して注目を集めた。山梨県もワイン県にしたらという人もいる。山梨県をワイン県にするのは難しいかと思うが、甲州市であればワイン市に出来るのではないかと思う。

○委員 甲州市の特徴を盛り込むということであれば絞らなければならない。ワインをすすめるお店があまりない。実際はどれだけワインに興味があるのか。ワインによる乾杯の条例があるが、ワインで乾杯する機会は行政が絡んでいる時だけである。市民がもっと甲州市のワインを認識するようにしても

らいたい。また、甲州市は駅を中心に寂れている。駅の周りに引き付けるものがない。目を引くものがほしい。

○委員 ワインを飲めない人もいる。ワインに特化することは良いことなのかとを感じる。客観的に見るとワインを飲む人は産地を回っても楽しいが、そうでない人は楽しくない。ワインを飲むだけでなく、先日勝沼ワイン映画祭というイベントが行われたが、ワイナリーが文化の発信場所になればいいと思う。ワインツーリズムのようなことが今の時代では新鮮だと感じる。

○委員 勝沼ワイン映画祭に参加しましたが、ワイナリーからワイン文化を知るととても良い機会でした。

○委員 果樹は年間を通して販売が出来ない。ワインは一年間を通して販売が出来る。

○委員長 甲州ワインは作れば作っただけ売れると伺ったことがある。

○委員 メーカーによってです。認知度などはあり、いい風が吹いている。他の産地にはない歴史や文化を取り入れていけばいいと思う。

○事務局 ワインはひとつの切り口。そこからどう活用して、他の産業と発展させていくかが大事である。

○委員長 リーサスの産業別の生産情報を見ると、飲食良品の項目が大きい。ワイン関係が大きいことがわかる。

○事務局 単に作る農業だけではなく、農家民泊や農家民宿等をやりたいという人が出てくると特徴が出てくる。学校教育においても修学旅行等で体験を入れることが文科省で謳われている。集落で受け入れて頂けるところがあれば、特徴的な取り組みができる。

○委員長 甲州市は宿泊できるところが少ない。

○事務局 今年の7月に甘草のシンポジウムが甲州市で開催される。県外からも100人程度お見えになる。今現在ぶどうの丘は予約でいっぱい状況であり、山梨市や石和、甲府に泊まるような話も出ているところである。

○委員 昨年暮れに塩山荘で忘年会を行ったが、県内の人でも「甲州市はワインが有名なの」と言われることがあった。ワインをすすめると、「こんなに美味しいワインがあるのですね」と喜んでいただいた。翌日は上条集落を訪れ、「こんなに素晴らしいところがあるのですね」と言っていたき、なんとかこのような土地を活かせないものかと感じた。上条集落については事務局より説明をお願いしたい。

○事務局 上条集落は伝統的建造物であり、甲州民家が連なる特徴的な集落が集中して残っているところです。春はスモモや桜の花が咲き、非常に景観的にも優れた場所である。歴史まちづくり法に基づいて認定された。認定されると、それに関わる事業に国からの補助を受けることができる。全国で指定されているところは60箇所ほどになる。歴史的なものや果樹を活用してこの地域を発展させていくことを商工業振興計画に入れていくと、特徴的なものになる。勝沼の朝市のようなお店を出している人から企業をする人が出てくると面白い。朝市を切り口に考えると面白い取り組みが出来るのではないか。また、駅前に何も無いという話があったが、現実的にホテルができる予定となっている。ホテルで食事を取らない宿泊者は外に出てくる。他の県

では屋台村のようなところもあり、そういったお店が出れば面白い。その内一軒でもワインを専門に扱っている屋台があってもこれは面白いと思う。

○委員長 勝沼朝市は、独特な雰囲気、みんなが楽しそうにやっている。朝市から起業される方もいるということで、ぜひ活用したいなと思います。企業がしやすい町というのも良い。

○事務局 若い人達がチャレンジできるような制度等も提案して頂ければと思う。地域資源を活用して私は、僕はこういうことがしたいということを広くPRして、その人が仕事や起業がしやすいようになれば面白い。そういうものにふるさと納税の寄付をあてたりしても良い。

○委員長 都会から甲州市へ来る方は多い。そういう人達にどうやってお金を使っていたか。たくさん人が来るということは何か魅力がある。仕事があれば引っ越してくる人の予備軍になる。人は観光に行って良いと思っただけでは移住しない。観光に行って町の人と仲良くなって、人とのつながりができると移住を考える。観光に来る人達をコミュニティに入れられると良い。勝沼朝市というコミュニティで起業することに繋げていけるのではないか。

○委員 廃業が増えてきて事業所が減ってきている。持続的に事業を続けていくのも大変なのかなと感じる。やはり儲かる仕事が必要なのか。

○委員長 政治家のように儲かる仕事は継いでくれる。

○事務局 観光ぶどう園がそうである。ほとんど後を継ぐ人がいる。現在地域おこし協力隊の一人が2年目のときにやりたいものは農業だと決意をし、色々な人達の協力の下、農業後継者として勉強をしている。やりたい、何かを起こしたいという人達が着てもらえる場を整えることも必要である。外から来る人とすでに住んでいる人達の支援のバランスが大切。

○委員長 やる気のある人を支えて、その人が儲かるような取り組みが出来ると良い。市内の人でも市外の人でも。若者にとってかっこいい町でありたい。

○委員 産業短期大学の生徒は何人くらいいるのですか。

○事務局 そこまで多くありません。産業短期大学は、勉強のカリキュラムが大変のようでして、その生徒が4年生大学のように自分のサークル活動の中で研究していくのが難しいようです。

○委員 学生に店舗を貸して、商売をしてもらっても盛り上がる。

○事務局 そういう話もよってけしにはあります。土日に店舗を借りてやりたいという学生もおり、上手くコラボしていければいいのかなと。

○委員長 土日だけでもやってみると良い。何か一つかっこいい魅力的な店が出来るとはやると思う。ザルツベルグさんには若いお子様連れの人達も見受けられる。

○委員 ザルツベルグができるまでは、喫茶店のようなお茶をするところがなかった。ようやくできたなと感じる。それに続くお店がまだ出てきてない。1階がお店、2階が住まいというところが多い。地域の人々の理解がまだ足りないのかなと感じる。

○事務局 海外の田舎町はかっこいい。1階はショーウィンドーのようになっており、やめたらすぐに次の人が入れる。イオンモールに人が入るのは店が

	<p>あるからで、まちがイオンモールのような歩いて楽しい町になると魅力的。</p> <p>○委員長 それが勝沼朝市であり、普段から朝市のような盛り上がりかほしい。そのためによすればいいかを考える必要がある。</p> <p>○事務局 そのような意見が盛り込まれた計画になると個性あるものになるのかなと思う。</p>
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 (資料1) 甲州市商工業振興計画策定委員会第1回委員会次第 2 (資料2) 甲州市商工業振興計画策定委員会委員名簿 3 (資料3) 甲州市商工業振興計画策定委員会設置要綱 4 (資料4) 甲州市商工業振興計画策定スケジュール 5 (資料5) 甲州市商工業振興計画策定に向けて 6 (資料6) 山梨県甲州市が応援するふるさと名物 7 (資料7) 甲州市まちづくりプラン (抜粋) 8 (資料8) 甲州市商業振興計画 (概要版) 9 (資料9) 甲州市商業振興計画
問い合わせ先	<p>産業振興課 商工担当</p> <p>TEL 0553-32-5092</p>